

OTSU CITY MUSEUM OF HISTORY

大津 歴博 だより

第41回企画展

ありし日の江若鉄道

—大津・湖西をむすぶ鉄路(みち)—

7月28日(金)～9月3日(日)

2006
No.63



江若鉄道の廃止 昭和44年 中島省三氏撮影



大津市歴史博物館

ありし日の江若鉄道

— 大津・湖西をむすぶ鉄路（みち） —

「江若鉄道」と聞いて、当時の姿をイメージできる方は、おそらく四十代以上の方でしょう。江若鉄道は、浜大津から今津までの鉄道で、近江と若狭をつなぐという意味から、それぞれの一字をとって、その名が付けられました。大正一〇年に

三井寺く坂本間が、昭和六年には浜大津く今津間が開通しましたが、若狭まで延伸するという夢は実現することなく、昭和四十四年に廃線、同四十九年に開業した国鉄（JR）湖西線にその役割を譲り、約五十年の歴史を終えました。

運行当時の江若鉄道は、浜大津—今津間二十六駅五十一キロを約一時間半で結んでいました。現在の湖西線西大津—今津間の所要時間が約四十分ですから、約二倍の時間がかかっていたことになります。しかし、江若鉄道が出来るまで、湖西への移動は、汽船であれば半日かかり、しかも天候に左右されたので、この開通は大きな進歩でした。江若の開通以前、明治には、湖東や湖北ではすでに鉄道は敷設されていました。江若の開通にあたり、沿線住民は費用を出して株主となりました。そうしたエピソードが残るほど、住民にとって江若鉄道の開通は宿願だったのです。

廃線から三十七年、今では当時の痕跡はほとんど失われてしまいました。その後、湖西の交通体系は、湖西線や湖西道路をはじめとする道路網の整備などで大きく変化しました。展覧会では、江若鉄道の運行時の様子を伝える写真をはじめ、沿線パンフレットなどの様々な資料から、湖西の鉄道の歴史をたどると同時に、沿線の様子の再現を試みる展覧会です。

本展は、大津市と志賀町の合併を機に、互いの共通の記憶にあるものを取り上げようと企画しました。また、今回は大津市・高島市との共催事業として、湖西全体での交通と暮らしとの関係を考えようという意味も込めています。これらの資料を懐かしくご覧いただきながら、地域と江若鉄道との結びつき、また大津・湖西とのかかわりを考えていただくきっかけとなればと考えています。



白鬚神社付近 昭和44年 高橋弘氏撮影



夏季臨時列車 昭和34年 高橋弘氏撮影



安曇川橋梁 高橋弘氏撮影

主な展示内容

湖西の鉄道のあゆみ

江若鉄道が開通するまで、湖西では明治以降様々な鉄道敷設が計画されましたが、実現しませんでした。このコーナーでは、初期の湖西の鉄道計画から江若鉄道の開業、湖西線開通など、湖西の鉄道のあゆみをたどります。

写真でたどる浜大津—今津間五十一キロ

この展示会のメインとなる部分です。江若鉄道が走っていた頃の様子を伝える風景は、今ではほとんど残っていません。このコーナーでは、浜大津—今津間二十六駅五十一キロを、駅ごとに古写真や資料で紹介し、現在の様子と比較してゆきます。また、沿線の観光スポット（水泳場・スキー場）などについても織り交ぜ、当時の沿線の様子をよみがえらせます。



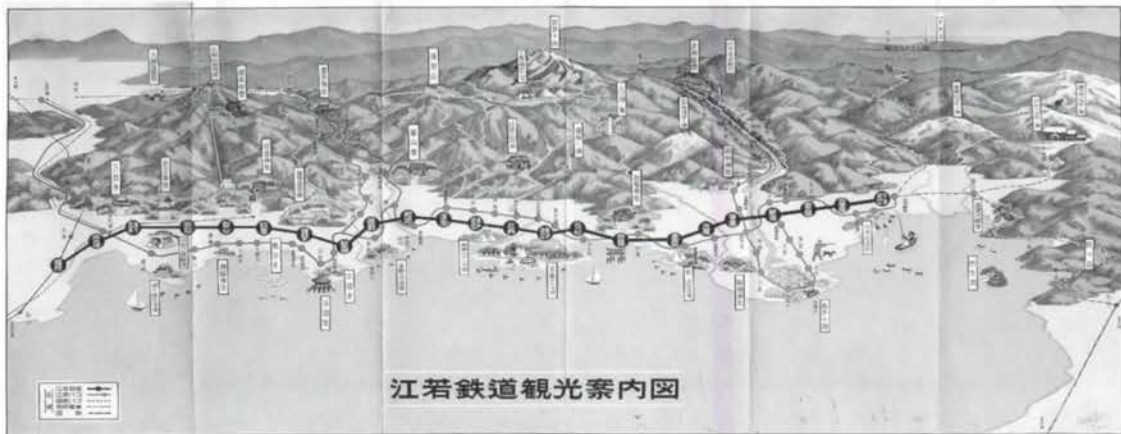
昔の江若今津駅舎(上)と現状(下)



江若浜大津駅

浜大津界隈の賑わい

浜大津駅は、江若鉄道営業当時は、江若のほか、京阪・国鉄（JR）などの鉄道とともに、汽船・バスの発着するターミナルとして賑わっていました。博物館常設展示室内のミニ企画展コーナーでは、展示会の第二会場として、浜大津の往時の賑わいを紹介するとともに、明治以降のターミナルとしての変遷を紹介します。なお、このコーナーは、七月二十五日(火)から九月一〇日(日)までを展示期間とし、常設展示観覧料のみでご覧いただけます。



沿線案内パンフレット 昭和25年頃 美濃功二氏蔵

その他の展示内容

◆江若鉄道ビデオコーナー

写真だけでなく、8ミリフィルムなどで撮影された、動いている江若鉄道の姿や沿線の様子を大画面でご覧いただきます。

◆鉄道模型コーナー

会場内では、湖西の沿線をイメージしたレイアウトで、江若沿線を走った車両の模型を走らせます。また、会期中の二日間、講堂において大レイアウトを敷設し、様々な鉄道模型を走らせる走行会も開催します。

◆江若鉄道思い出掲示板

江若鉄道の写真と思い出話を皆様から募集し、館内に掲示します。また、お越しいただいた方々からも当時の思い出を随時募集します。

●主催

大津市・大津市教育委員会
大津市歴史博物館・高島市・高島市教育委員会・京都新聞社

●観覧料

一般：五〇〇円
高大生：四〇〇円
小中生：二〇〇円

一五名以上の団体、大津市内在住の六五才以上の方・障害者の方は二割引
●期間中の休館日 月曜日



浜大津付近のさよなら列車

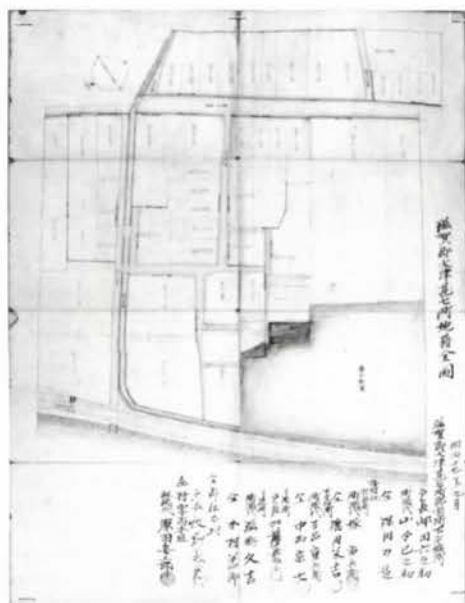
第55回ミニ企画展 大津の古文書5

絵図に見る大津百町今昔

■平成18年6月6日(火)〜7月23日(日)

戦後、特に昭和三十年代から始まる高度経済成長のなかで、浜大津を中心とする大津の市街地の景観は、大きな変化を見せました。湖岸の埋め立てが進み、道路網は整備され、古くからの町家は姿を消し、高層ビルディングや駐車場に姿を変えていきました。逆に言えば、そういった急激な変化の起こる直前、つまり戦前までの景観は、実は江戸時代とさほど違いは無かったのではないかとさえ思えてくるのです。

今回のミニ企画展では、右のような視点から、市街地、特に江戸時代、大津百町として栄えた地域をサンプルとし、目で見る「今昔の履歴書」を作成することが目的です。素材は、鳥瞰図風に描いた江戸時代の大津の風景画が掲載された「名所図会」、江戸時代の町絵図、明治初年に作成された地券取調総絵図、さらには明治時代後期から流行する絵葉書や数々の古写真など。それらの資料を駆使しつつ、景観の変化を追跡しようと考えています。



滋賀郡大津甚七町地籍全図 本館蔵

入場者が一〇〇万人を突破しました。

大津市歴史博物館は、平成二年一〇月二十八日に開館し、開館十六年目を迎えた平成十八年二月末現在で、常設展示や企画展示、土曜講座等に九九万八〇〇〇人のお客様をお迎えしてきました。そして、平成十八年三月十七日午後一時三十分頃に一〇〇万人を突破しました。

記念すべき一〇〇万人目のお客様は、兵庫県尼崎市の門田典子さんと、開催中の企画展「大津絵の世界」展を観覧するために来られました。大津市長、教育長をはじめ、館員一同の拍手の中、「くす玉」を割って門田さんをお迎えし、市長から花束と記念品をお渡ししました。

今回のセレモニーは、職員の手作りで行なったものですが、一番気をつかったのは「くす玉」でした。くす玉本体は、大津市生涯学習センターからお借りしたのですが、中に入れる垂れ幕やテープはパソコンで作りました。また、当日きちんとくす玉が割れてくれるかどうか、二日前から何度もリハーサルを繰り返しました。幸い、本番はきちんと割れてくれました。

博物館では、これを節目としてより一層皆さんに親しまれ、利用してもらえような博物館にしなければならぬと、心を新たにしました。



平成十七年度下半期

歴史博物館新収蔵品の紹介

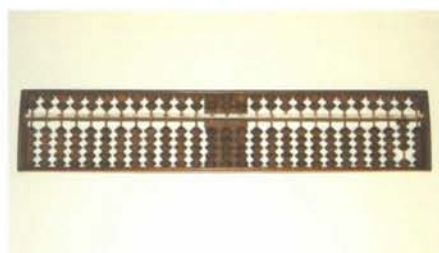
- ・近江八景絵葉書 一括 明治から昭和時代 中川高子氏寄贈
近江八景を中心に収集された絵葉書コレクション。八枚揃が多く資料としても貴重だが、風景の変遷を知る古写真データとしても活用できる。
- ・蒸気船一番丸模型 付・丸子船模型 二艘 宇野為夫氏寄贈
明治二年（一八六九）に竣工した琵琶湖最初の木造蒸気船。大津の近代を語るうえで不可欠な資料。模型は、同氏が錦絵などを参考に、平成十七年に製作されたもので、模型本体の長さは六十九センチ。
- ・大津算盤 一挺 江戸から明治時代 河内美代子氏寄贈
算盤の裏側、上下の枠に「大津追分町一里塚前庄兵衛」などの貼紙が残る。また位取りも町・反・畝や石・斗・升など様々な単位が見える。
- ・金属玩具 小菅のジープ 一点 昭和二十年頃 小澤 昭氏寄贈
「小菅のジープ」とは、大津に進駐した占領軍から放出された空き缶などを材料に製作した戦後第一号のブリキ玩具の通称。
- ・谷本勇撮影写真資料 一括 昭和（戦後） 谷本勇氏寄贈
写真家である同氏が、大津の市街地を中心に、その風景や生活の様子などを撮影されたもので、昭和二十年代後半から撮り続けられたライフワークの成果。そのほとんどに撮影年月日が記録されているのも貴重。
- ・櫓とモンドリ 昭和時代中期 吉田次男氏寄贈
下阪本で物資の運搬や農、漁業に利用された田船の櫓、ヨシ群落に寄つてくる魚を捕獲するモンドリ。



蒸気船一番丸模型



近江八景絵葉書



大津算盤



金属玩具 小菅のジープ



モンドリ



谷本勇撮影写真資料 (東京オリンピックの聖火リレー)

大津歴博だより No.63
平成18年6月20日

大津市歴史博物館
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077)521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>